

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26283006

研究課題名(和文) 現代南アジアにおける法と権利の動態をめぐる研究 国制・権利・法秩序

研究課題名(英文) Interdisciplinary studies on dynamics of laws and rights in the contemporary south Asian societies

研究代表者

山本 達也 (Yamamoto, Tatsuya)

静岡大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：70598656

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究プロジェクトは、法と権利に焦点をあてることで現代南アジア(特にインドとネパール)における人々の民主主義的な政治参加の様態と、それが法制度の構築および運用にもたらす影響力を明らかにした。これにより、現代南アジア社会で生じている動態性を析出することができ、人々がいかなる形で南アジア型法秩序を生きているのかを明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This project had been working on clarifying how people in South Asian countries such as India and Nepal have been democratically participating in politics. It had especially paid attention to relationships between laws and concepts of rights such as human rights and citizenship, and showed how these relationships have been influencing the constructions and organizations of the legal orders in such countries. Through these focuses, this project successfully shows the dynamics in contemporary South Asian countries and how people there live under the South Asian legal orders.

研究分野：文化人類学

キーワード：南アジア 法 権利 民主主義 法秩序

1. 研究開始当初の背景

本研究課題は、石坂晋哉氏が代表を務めた科研プロジェクト(基盤B)「ポストコロナル・インドにおける社会運動と民主主義」の問題意識を継承したものである。加えて、特に南アジアにおける法の制定・運用と人々による権利の行使や主張に着目することで、現代南アジアにおける社会的動態の様相を導出することを目指した。

2. 研究の目的

本研究課題の目的は、南アジアにおける権利の獲得・行使の実態を、法制度の規定と運用を踏まえつつ、臨地調査によって明らかにすることである。従来の研究は、法制度そのものの紹介や権利をめぐる運動の個別事例分析にとどまっているものが多く、法の制定・運用と個別具体的な文脈における法と権利の要求・行使との間に展開される動態を十分に捉えてこなかった。本研究では、国制・権利・法秩序、「新しい権利」と司法制度、権利の行使と支援団体、権利意識の生成、という4つの視点から、(a)南アジア固有の文脈における<法と権利>の多様なあり方をミクロとマクロの両面から分析して「南アジア型法秩序」を導出するとともに、(b)法学や政治学における普遍主義的な権利論に対して個別的文脈を重視する地域研究から理論的貢献を果たすことを目的とする。

3. 研究の方法

本研究課題は、国制・権利・法秩序、「新しい権利」と司法制度、権利の行使と支援団体、権利意識の生成、という4つの視点を明らかにするために構成員を4班に分け、議論を深化させる。特に文化人類学者、社会学者、政治学者からなる本研究課題構成員は、臨地調査を重視し、各自が対象とする地域でフィールドワークを行い、また、資料収集のために旧宗主国であるイギリス等の図書館でも研究活動を行う。

4. 研究成果

4年間の研究を通して、本研究課題は「南アジア型法秩序」の導出を試み、それは一定程度果たされたと考える。特に、研究期間の後半は「現代インド型法秩序」をめぐる国際学会でのパネル発表をウィーンやチェンマイで開催し、大きな反響を得た。本研究課題の研究成果は2018年12月5日にPalgrave MacMillanより出版されることになっており、研究期間終了後も国際的な議論の展開に結びつくことが期待されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8件)

山本達也、「「作る」と「パクリ」の狭間でチベット・ポップをめぐる権利言説と実践から見る難民社会の今」『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』臨川書店、2018年、175-202。査読あり。

YAMAMOTO, Tatsuya, “Lyrics Matter: Reconsidering Agency in the Discourses and Practices of Tibetan Pop Music among Tibetan Refugees”, *Revue d'Etudes Tibétaines* 40:126-152, 2017. 査読あり。

Kimura, Makiko, ‘Forest as a Site of Conflict: Struggle over Indigenous Territory in Bodo Areas, Assam Forest and conflict,’ in Minoru and Dasgupta, Abhijit ed. *Rethinking Social Exclusion in India*, Routledge: New Delhi, 2017, pp.125-135. 査読なし。

Suzuki, Maya, “Exclusivity rather than Inclusion: Dalit Assertion in Contemporary Urban India,” in Minoru Mio, Koichi Fujita, Kazuo Tomozawa and Toshie Awaya (eds.), *Structural Transformation in Globalizing South Asia (Senri Ethnological Studies)* 96: 109–124, 2017. 査読あり。

橘健一、「ネパール先住民チエパン社会における「実利的民主化」と新たな分断—包摂型開発、キリスト教入信、商店経営参入の経験—」『体制転換期ネパールにおける「包摂」の諸相：言説政治・社会实践・生活世界』三元社、2017年、199-232頁。査読なし。

中溝和弥・石坂晋哉、「民主政治と社会運動—制度と運動のダイナミズム」、田辺明生・杉原薫・脇村孝平編『多様性社会の挑戦』シリーズ現代インド1 東

京大学出版会、2015年、305-332。査読なし。

上田知亮、「東部・北東部の州政治からみるモーディー政権の行方」、『現代インド・フォーラム』、24号、2015年、22-30頁。査読なし。

橋健一、「チトワン郡チェパン村落における政党支持と抑圧の顕在化」、『現代ネパールの政治と社会-民主化とマオイストの影響の拡大』明石書店、2015年、383-410頁。査読なし。

〔学会発表〕(計 9件)

YAMAMOTO, Tatsuya, “Conjunct Citizenship: Tibetan Refugees Encountering Multiple Actors”, 10th International Conventions of Asian Scholars, 2017年.

ISHIZAKA, Shinya, “Beliefs and Movement: On the Misapprehensions of "Hindu" Elements in the Anti-Tehri Dam Movement”, 10th International Conventions of Asian Scholars, 2017年.

Kimura, Makiko, “Resisting Militarization and Extrajudicial Executions in Northeast India”, 10th International Conventions of Asian Scholars, 2017年.

KONISHI, Kodai, “Toward the Resurrection of Sacred Land: A Case from Development of Wind Power Generation in Thar Desert”, 10th International Conventions of Asian Scholars, 2017年.

Suzuki, Maya, “Transnational Anti-caste Movement and identity in British Society”, 10th International Conventions of Asian Scholars, 2017年.

YAMAMOTO, Tatsuya, “Pitfalls in Appropriating Human Rights Discourses? s: A Case Study of Tibetan Refugees in India (and Nepal)”, The 3rd ISA Forum of Sociology, 2016年.

ISHIZAKA, Shinya, ““The Right to Know Is the Right to Live”: The Right to Information Movement in India”, The 3rd ISA Forum of Sociology, 2016年.

Suzuki, Maya, “Law and Justice from the Bottom: The Public Interest Litigation Movement in

Contemporary India,” The 3rd ISA Forum of Sociology, 2016年.

FUNAHASHI, Kenta, “Rethinking the Reservation Policy in Contemporary India: A Local Point of View”, The 3rd ISA Forum of Sociology, 2016年.

〔図書〕(計 5件)

YAMAMOTO, Tatsuya and UEDA Tomoaki (eds), *Law and Democracy in Contemporary India: Constitution, Contact Zone, and Performing Rights*. Palgrave MacMillan, 2018 (forthcoming).

石坂晋哉 (編)、『インドの社会運動と民主主義—変革を求める人びと』、昭和堂、2015年、330頁。

上田知亮、『植民地インドのナショナリズムとイギリス帝国観：ガンディー以前の自治構想』、ミネルヴァ書房、2014年、312頁。

鈴木真弥、『現代インドのカーストと不可触民：都市下層民のエスノグラフィ—』慶應義塾大学出版会、2015年、250頁。

舟橋健太、『現代インドに生きる 改宗仏教徒—新たなアイデンティティを求める「不可触民」—』昭和堂、2014年、250頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本 達也 (YAMAMOTO, Tatsuya)
静岡大学・人文社会科学部・准教授
研究者番号：70598656

(2)研究分担者

石坂 晋哉 (ISHIZAKA, Shinya)
愛媛大学・法文学部・准教授
研究者番号： 20525068

上田 友亮 (UEDA, Tomoaki)
東洋大学・法学部・准教授
研究者番号： 20402943

木村 真希子 (KIMURA, Makiko)
津田塾大学・学芸学部・准教授
研究者番号： 90468835

小西 公大 (KONISHI, Kodai)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号： 30609996

鈴木 真弥 (SUZUKI, Maya)
東京外国語大学・その他部局等・研究員
研究者番号： 30725180

橘 健一 (TACHIBANA, Kenichi)
立命館大学・政策科学部・非常勤講師
研究者番号： 30401425

舟橋 健太 (FUNAHASHI, Kenta)
龍谷大学・社会学部・講師
研究者番号： 90510488

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

板倉 和裕 (ITAKURA, Kazuhiro)
鈴木 晋介 (SUZUKI, Shinsuke)